

事業報告書

事業所名：法人本部【平成27年度の事業状況について】

法人本部では引き続き、組織継承を着実に進める事を第一としました。経営のバトンはさらに次世代に渡し、法人本部体制も、常務理事、統括会計責任者に加え、総務を統括する事務長を配置し、法人経営が滞りなく進められる様な工夫をしました。しかし、本部と現場業務との兼任なかで、実質の体制になるにはまだ課題は残ります。加えて、現場の力量を上げていく事も急務です。そのため、人材育成にも力を入れ階層別研修では、新人研修だけではなく拡大新人・中堅者研修も実施しました。これはゼミ方式で行い参加型の研修としました。その成果は後期に少しずつ現れ始め、職員のモチベーションやチームワークなどにつながり始めています。

また、職員が働きがいのある職場を目指して、人事制度の整備も行いました。その一環として、コンサルタントを招き、人事考課の導入に向けての準備をし、考課者研修や新しい給与体系の検討を進めました。H28年度からは本格実施となります。一方サービス面では、就労系ではH27年度もピアス15名、オープナー30名の方々が就職されました。H30年の精神障がい者の法定雇用率算入に向け、就労支援は一見活況に見えます。しかし、規制緩和により株式会社の台頭などがあり、外部状況が大きく変化しています。そこと互角に戦いながら、着実に就職者を出していく事は年々難しくなっている所でもあります。また、生活系では、なびいで行っているサービス等利用計画書が順調に策定され、国立市ではH27年12月にサービス等利用計画書策定達成率が96.4%となりました。これは都内6番目と高く、なびいもそこに貢献した形となりました。

さらに、地域に向けての取り組みですが、スペース貸出しや高齢者配食サービスなどは、従来通り行いながら、講師を招いて「地域貢献」についての学習会も行いました。「なぜ今、地域貢献が求められているのか？」を学びつつ、「自分達に出来る地域貢献」についてグループディスカッションを行いました。各職員から様々なアイデアが出され、学習会はとても盛り上がりました。H28年度以降にはこれらが実際のものになればと思っています。最後になりましたが、社会福祉法の改正という、国の制度の大転換もありました。これは社会福祉法人の大改革と言われ、今まで以上に社会福祉法人に求められるものは厳しくなっていくようです。棕櫚亭でも影響を受けると思いますが、土台はここまで築いて来たのでこの波も着実に超えていきたいと思っています。

【平成28年度事業計画】

H28年度は、11月の役員改選が行われると、次期組織体制がスタートとなります。そのため昨年度同様、組織継承が第一の取り組みとなります。次期体制を具体的に示す事や、本部職員の現場兼務の問題など残っている課題には早急に取り組んでいきます。次に人事考課についてですが、これも組織を作っていく大きな要となるので、組織に根付かせる努力をしていきます。また、評価を入れた一方で、職員が学ぶ機会も増やしていきたいと思います。外部講師を招いた研修はもちろん、昨年度好評だったゼミ方式の研修は継続して行う予定です。さらにサービス面では、オープナーが新規二事業を受託しました。就労支援の市場は難しくなりつつありますが、H30年に向け国は様々な施策を考えていますし、働きたい精神障がい者の方々もまだまだいます。そのためにも、これらの事業を成功させていきたいと思います。最後に、社会福祉法改正についてですが、夏以降に国から具体的な方針が出る様ですので、その状況を見ながら対応していきたいと思います。

事業報告書

事業所名：ピラス【平成27年度の事業状況について】

30名の就労移行支援事業と、2年目を迎えた6名の自立訓練（生活訓練）事業を運営した27年度ですが、大きく「事業の安定運営」と「就労支援の充実」、「2年目の自立訓練・移転後のピラスⅡの安定」をやり組んできました。

「事業の安定運営」に関しては、個別給付の事業という特徴から1日の平均利用者数を一定にするため、規入所者の定期的な受け入れを行い、月平均2.8名の方が両事業に入所しました。しかし上半期に10名職が出たことにより新規受け入れが追いつかず予定を下回りました。後期はより一層の受入や、事業工夫を行い、持ち直すことができました。

「就労支援の充実」については、毎年15名以上の就職を目安にし、そのためのプログラムの充実を心掛けています。27年度は入所初期の利用者にむけての新しいプログラム、「作業体験プログラム」の試行職歴が無い方や少ない方向けに仕事の心構えや報連相などを学ぶ「おしごと講座」を実施しました。年目に入った発達障がいのある方向けのプログラム「CES」も好評で、枠を超えて待機している方でした。さらに定着支援として土曜日に行われている「フォローアップCES」も3年目を迎え、安定1回4～5名の参加者で会社でのコミュニケーションのスキルを学んでいます。

上記にあげたプログラムに加え、より職場とのマッチングを事前に図るための職場実習の提供にも力でしたが、26年度を上回る25名に延べ42回の機会を提供することが出来ました。その結果17名（者）を送り出すことができました。

「2年目を迎えた自立訓練・移転後のピラスⅡの安定」ですが、大きく動いた1年でした。自立訓練は介機関に周知されてきた事もあり、11名の方が入所しました。就労に向けチャレンジを始めたいけれど就労移行からではハードルが高すぎる状況の方にとっては、モチベーションを保ちながら少しずつ取場となり、28年2月からは定員を10名に増やしました。また、立川から移転してリニューアルをしたⅡ（就労移行）ですが、徐々にワークサンプルを主体とした基礎的なトレーニングの場として落ち着きました。厨房や清掃などの実践の場を持っているピラスと一体的なトレーニングを提供していく流れ年度も模索していく予定です。

これらのように、利用者層の広がりがより進む中、試行錯誤を重ねてきた1年でしたが、その中でオーとの連携には力を入れてきました。プログラムを使った職員体制の乗り入れ、求職ケースの共有、ナーのアセスメント体験の共同受入などを通し、早めの共有をすることでスムーズな求職活動につながるよう取り組みました。

なかなか以前の様に、トレーニングに安定して参加できていれば就職に結びつく時代ではなくなっています。就職の人数だけでは見えない、その後の定着までを考えた準備を提供していく必要性を感じています。

【平成28年度事業計画】

毎年の柱にあげている「事業の安定運営」と「就労支援の充実」について、引き続き取り組んで行き、こここのところ経済面や家族状況等の事情を抱えている方も増えてきているので、28年度は東京都の委練事業を再開し、短期間の受け入れ等にも取り組みます。また、昨年度から始めているオープナーのメントを経た方の短期（3か月ごとの更新）受け入れも引き続きおこない、職員のスキルを向上させたいと考えています。

28年度は、3年目を迎える自立訓練とピアスⅡを使った就労移行の初期訓練、そこからのピアス本格的利用の流れを構築していく年となります。周りに就労移行やA型事業所も増えてきている中、自立訓練と就労移行、そしてオープナーとの連携を棕櫚亭の就労支援の特色として、地域に紹介していけたらと考えています。

最後になりますが、就労トレーニングであり地域の窓口にもなっている夕方の配食事業は、まだ可能性のたくさんあるものだと考えています。現在も国立市との事業に加えて、自費での追加や棕櫚亭の利用者に夕食を届けていますが、今年度はもう少し地域の要望に応えられるよう試行していく予定です。

事業報告書

事業所名：オープナー【平成27年度の事業状況について】

昨年度のオープナーは、ピアスとの連携や外部への発信（アセスメント・就労研・セミナー等）に力を入れることを目標にしました。前年度から受託している職場定着サポート事業の集大成の年でもあり、支援の質を下げないという合言葉のもと、すべてのスタッフにとって多忙な年になりましたが、それぞれのスタッフが役割分担の意識を持ちながら、チームワークで乗り切った1年でした。

就職したい新規相談者は増加傾向にあります。求職活動支援より職業準備性をどこでどのように高めるかといったニーズへの支援が多くなりました。そのため就職者数に関しては、前年度より下がっています。

離職者は、安定して定着している方のステップアップ（収入・正社員）を目指した転職もあり、例年に比べ多くなりました。また業務・人的環境の変化や生活上の問題等の負荷による病状悪化による退職ケースが残念ながらあります。これら離職に歯止めをかけるには今まで同様の定期相談と会社訪問支援では立ち行かなくなっていることを実感しています。

一人一人の特性や力を把握（アセスメント）しご本人と共有すること、それを会社に情報提供し定着支援する基本支援にはピアスとの連携が欠かせません。ジョブコーチがトレーニングに参加しピアス部門担当者との共有したことが早めの連携なり、就労へ段取りがスムーズになりました。

さらに昨年度は「アセスメント」をピアスのワークサンプルと授産のトレーニングを使い取り組みました。仕事に必要な力を量りたいという法人外部16名の当事者と就労支援機関に行い好評でした。

【平成28年度事業計画】

オープナーが一昨年度より受託した東京都の「障害者職場定着推進サポート事業」の結果では、精神障がいをもつ方の雇用継続の難しさが浮き彫りになりました。法制度の改正や最低賃金のアップなどで就職しやすさは認められますが、精神障がい者の働きやすさと働き甲斐につながっているとは言えない状況です。平成30年の雇用促進法（精神障がい者の雇用義務化）改正を踏まえ、雇用継続の課題は、雇い入れと定着支援の双方充実しなければ解決しないと考えています。

今年度も職員一人ひとり支援力をつけ、就職者30名、職場実習60名数値目標をもとに取り組んでいきます。また、地域に役立つオープナーを意識し、働きたい当事者と就労支援機関に「アセスメント」や「委託訓練」等を提供し職業準備性を高めた就労支援を行います。さらに多摩地区のネットワーク構築のために研修・セミナー・研究会を通じて行っていきます。

定着支援では今年度より配置された主任職場定着支援員を活用し、精神障がい者の特性に合わせた働きやすい職場や業務について会社や精神障がいを持つ方に提案し雇用継続できるよう取り組みます。平成28年度は新事業「※中小企業障害者雇用応援連携事業」「障害者就業・生活支援センター事業の評価」についても積極的に行います。

※都内にある中小企業の障がい者雇用の推進に向けて、障がい者の雇用支援に精通した支援員（オープナーの経験のある職員）が計画的に企業への個別訪問を行う事業。

事業報告書

事業所名：棕櫚亭Ⅰ【平成27年度の事業状況について】

27年度の事業活動は、利用者の現状に沿ったプログラムの見直しと定期点検ということで、午前中の軽作業のチェックシートの改訂や活動の進め方・グループ作りなどをスタッフで共有するように努めてきました。又、外出プログラムを増やし動物園や水族館に出かけたり、「国立さとのいえ」で昼食会をしたり、さらに、例年通り「ふれあいスポーツ」や「国立市民祭」にも参加して、地域との交流を心掛けてきました。こうして、26年度に入所した利用者を中心に、「メンバー主体のプログラム」の動きが再び出始め、また午前中の軽作業や公園清掃・午後の各種プログラムへの参加人数も少しずつ増えていきます（次ページ基礎データ参照）。

一方で、40代以上の利用者が全体の70%を占めて高齢化は着実に進んでおり、日常の支援での目配り・気配りは欠かせません。また、今年度退所した7名の多くは、就労継続支援B型や就労移行支援の事業所に移行して、さらにそこから一般就労した方もいて、ゆっくりではあっても着実に力をつけて次のステップに進むメンバーが育っています。さらに、地域活動支援センターとしての棕櫚亭Ⅰの役割や存在意義を地域に発信していくために、3月に「絵画ワークショップ」を開催しました。初めての試みということでスムーズにいかない点も多くありましたが、他施設より3名・なびいより3名・Ⅰのメンバー5名が参加して、講師の先生を囲んで和気あいあいと楽しく絵を描いたり交流できました。参加者にも喜んでもらったことは大きな収穫になり、今後も続けていきたいと考えています。いずれにしろ、高齢化が進み、障がいも多様化する中で、引き続き個別支援とグループ支援のバランスを取りながら、利用者一人一人が安心して通える棕櫚亭Ⅰであることを目指し、個人の状況や障がいに沿った支援を心掛けていきます。

【平成28年度事業計画】

27年度の全体状況を振り返ったうえで、28年度もこれまで棕櫚亭Ⅰが活動の基本としてきた

- ① 定期的に通所して生活のリズムを整えよう
- ② 仲間やスタッフとともに活動してコミュニケーション力をつけよう
- ③ 学習や情報交流を通して地域生活をさらに豊かにしよう

の3点を大切に、さらに高齢化・障がいの多様化も踏まえて事業計画を立てました。

職員の支援力の向上と方法の検討（研修への参加・学習会の設定）

→利用者主体の活動をさらに推進します。

→高齢利用者への配慮と対応の工夫を進めます。

→利用者の今後を見据えての支援を進めます。

積極的な外部との交流を進めます

→様々なイベントや研修の機会に他施設職員と交流して、見識を広めたり情報収集をします。

→利用者の他施設見学を企画して実施します。

棕櫚亭Ⅰの役割や存在意義を市民に発信します

→絵画ワークショップだけでなく、有効で具体的な企画を検討します。

事業報告書

事業所名：なびい【平成27年度の事業状況について】

相談支援事業

「丁寧な相談支援」をベースに、継続して支援している方は194名でした（【基本データ】参照）。その総支援件数は、前年度の1.4倍となり、関係機関との調整件数が前年の1.9倍、訪問件数も1.5倍と、前年度よりかなり増えました（【表C】参照）。このことは、障がい疾病の多様化で、複数の関係機関とチームを組んで支援している方が圧倒的に増えたこと、こちらから出向くことでしか支援を届けられないアウトリーチのニーズが増えたことを表しているようです。

このようなニーズになるべく応え、支援の質を上げていくことを目指して、サービス等利用計画作成時の「モニタリングを強化する」というプランにも取り組みました。これも、最終的には前年度1.5倍の件数に達しました（【表B】参照）。利用者の方からは、「モニタリング作業で、これまでのことをふりかえる記録を作ることで、自信につながった気がする」という感想をいただいています。

「新規相談件数」にも丁寧に対応してきましたが、相変わらず多様化しています（【表A】参照）。3年目に入った「自立支援協議会・しごと部会」ですが、立場の違いがある中で、互いの情報を共有し土台作りをしてきました。年度最後に、当面のテーマを「障がい者雇用」に絞って議論を進めていくことになりました。あわせて、雇用の取り組みを現実のものとしていくために、今まで欠員だった雇用主側に参画していただけるよう声をかけ、青年会議所立川支部から委員を出していただくこととなりました。今年度は、成果を出せる取り組みにしたいと考えています。

地域活動支援センター事業なびいでは、「各種プログラム活動」を提供しています（【表D】参照）。サービスを利用し始めて間もない方々向けのもの（1人～5人程度で行う少人数制。例：調理プログラム、デイサービスなど）もあれば、どなたでも参加できるもの（一人ではなかなかできないものをみんなで。例：ヨガ教室、外出活動や交流会など）もあります。参加者の方々は、継続して利用する方が多く、そのことが自信につながり、次のステップへのきっかけになることも多いようです。フリースペースも含めて、みなさんが「安心して過ごせる場づくり」に取り組みました。地域のみなさん向けにやっている「家族講座」は、従来のものに加え、発達しょうがいにも焦点をあてましたが、たくさんの方々に来ていただき、たいへん好評でした。また、法人全体で協力し、地元商店街での「フリーマーケット」も出店しました。その売り上げは、熊本地震で復興に取り組まれている社会福祉法人さんに全額寄附することができました。これからも、社会貢献・地域貢献を地道に行っていきたいと考えています。

【平成28年度事業計画】

引き続き、新規相談も含めて、ひとつひとつ丁寧に対応していきます。現在、利用契約作業の更新をお一人お一人と行いながら、ニーズと支援を確認しています。また、アウトリーチのニーズに何か事業として対応できないかと職員間で企画を検討もしています。また、市と高次脳機能障がいについてのうちあわせも行って、何か私たちが支援できることがあるか考えています。プログラムは、ウォーキングをスタートさせました。参加者からのご意見を聞きながら、試行錯誤していきます。家族講座やフリーマーケットなど、地域に向けて発信する取り組みも今年度も企画しています。